

国立天文台・天文情報センター・特別客員研究員 中桐正夫

*** 1穴あけパンチ (針状) 収蔵**

穴あけパンチというのが正しい呼称かは不明だが、国立天文台の廃棄物置場に捨ててあったが、まだ使えそうなので拾ってきた。穴あけパンチと通常いうものは2穴パンチ(写真1)が普通で、ハワイ滞在中は3穴パンチ(写真2)が普通であった。



写真1 2穴パンチ



写真2 3穴パンチ

1穴パンチも普通は写真3のように丸い穴をあけるものだろう。今回、拾ってきたものは丸い穴をシャープにあけるものではなく、昔、千枚通し(写真4)というものがあつたが、これをいまどきのパンチ風にしたものと思われる。



写真3 1穴パンチ



写真4 千枚通し

最近では、書類をバインダーなどに綴じる際、2穴パンチがよく用いられる。筆者が幼いころは「こより」と呼ばれる薄い和紙をよじったものを千枚通しで紙に穴をあけて書類をとじたりしていた。今回拾ってきた道具は、ただ尖った鉄棒で穴をあけるものようだ。千枚通しのようにひもを通す穴はない。今どき、こんなきれいな丸穴が開くでもない道具が使われるとも思えない。いったい何に使っていた道具だろうと思うが、「TOHO」という会

社のものだから、それほど古いものではない。

ひもを通すには千枚通しのようなものは必要だが、まだ十分穴が開けられそうなので拾っておいた。写真を見ていただこう！写真5がそれである。尖った針先が写真6。



写真5



写真6 尖った針先

紙に穴をあけてみたが、丸い穴はあくが、穴の部分が切り取られないので、裏に穴の部分の紙がめくれてくっついている（写真7）。



写真7 穴の部分の紙がめくれている

こんなものを持ってきて収蔵とはおこがましい！と言われるのは承知の上で。

これらアーカイブ新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp